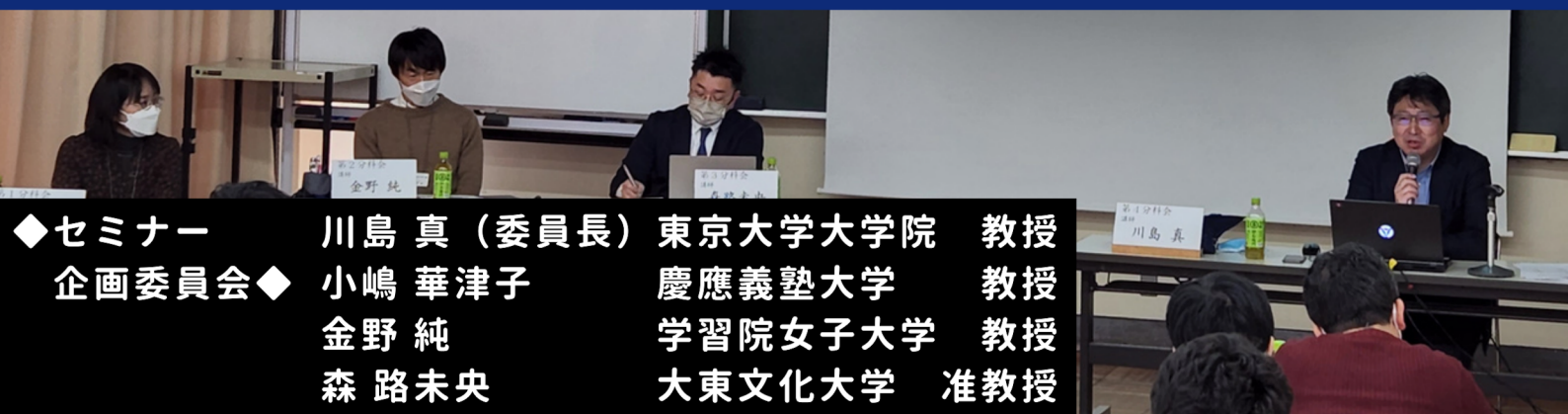


世界中の中国と日本 現代中国理解Ⅴ

内在的な中国理解に基づいて考える



◆セミナー
企画委員会◆

川島 真 (委員長)	東京大学大学院	教授
小嶋 華津子	慶應義塾大学	教授
金野 純	学習院女子大学	教授
森 路未央	大東文化大学	准教授

2023. **12.2**(土) - **3**(日) 対面宿泊型

会場 大学セミナーハウス (東京都八王子市下柚木1987-1)

募集対象 大学生 (大学院生・留学生を含む)、高校生、社会人

募集人員 35名

参加費 協力会員校学生 (高校生を含む) : 7,000円

※講師ゼミ生は、会員校と同じ

一般校学生 : 9,000円、社会人 : 16,000円

※参加費には宿泊・食事・受講費・消費税を含みます

募集締切 2023年11月21日 (火)

お申込み方法

大学セミナーハウスHPのセミナー申込
フォームよりお申込み下さい。



お問合せ先

大学セミナーハウス セミナー事業部

[Tel] 042-676-8512 (直)

[Fax] 042-676-1220

[Email] seminar@seminarhouse.or.jp

[URL] <https://iush.jp>

公益財団法人大学セミナーハウス主催 グローバルアカデミーセミナー

世界の中の中国と日本ー現代中国理解 V

内在的な中国理解に基づいて考える

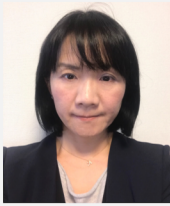
開催趣旨

セミナー企画委員長 川島 真

世界的にポストコロナの時代に入り、国家、地域、企業、個人などがそれぞれ原状回復を目指そうとしてもなかなかできず、それぞれが新たな着地点を見出すべく模索の中にいます。中国もその例外ではありません。習近平政権が3期目に入り、経済の回復、統治秩序の強化を目指しますが、そこにはコロナ前からありながらも、より深刻化した多くの問題が横たわっています。人口減少も予想より早く到来し、不動産市場もコロナ前には戻りません。また、コロナの感染拡大中に中国政府が採用した強硬な施策に対しては少なからぬ疑義が社会から惹起され、それがポストコロナの時期の統治に影響を与えています。対外関係の面でも、米中「競争」が激化するだけでなく、途上国・新興国との関係でもインドが台頭し、中国の立ち位置は難しくなっています。このような中国をまずは理解すること、特に中国の様々な主体がこの問題をいかに捉え、対処しようとしているのでしょうか。このセミナーではそれを政治、経済、社会、対外関係の面から考えます。それを踏まえて、日本の立ち位置、台湾問題を含めた東アジアの平和についても議論を深めていきましょう。参加をお待ちしています。

第1分科会

政治



小嶋 華津子
慶應義塾大学 教授

この分科会では、昨年に引き続き、「習近平総書記になった」つもりで、中国が直面している諸課題について、どう差別したらよいのかを真剣に話し合いたいと思います。汚職の撲滅、地方財政の再建、国民の福祉の向上、少数民族地域の安定、安全保障の強化など、中国が取り組むべき課題は多岐に及んでいます。では、これらの課題にとり組むにあたって、習近平総書記が用いるのこのことのできる政治的リソースやツールにはどのようなものがあるのでしょうか。政策の決定や実施には、どのような障碍が想定されるのでしょうか。話し合いを通じて、中国共産党とはどのような組織なのか、中国の官僚機構はどのような特徴をもっているのか、権力機構と市場や社会とはどのような関係にあるのかについて理解を深めたいと思います。

第2分科会

社会



金野 純
学習院女子大学 教授

この分科会では、現代中国社会が抱える諸問題と共産党による社会統治の観点から、今の中国について考えてみたいと思います。躍進/停滞など経済面から報じられることの多い中国ですが、そこには多種多様な社会問題（人口減少と社会保障、環境破壊、民族対立、世代による政治的価値観の変化…等々）が存在しています。

本グループでは、講師が準備したコースパックに基づいて、こうした社会の諸課題についてより深く理解する機会を提供したいと考えています。最終的にはいくつかのグループに分かれて複数の社会問題を考察することで、一党独裁体制下における中国社会の持続的発展の可能性について、多様な視点から議論したいと思います。

第3分科会

経済



森 路未央
大東文化大学 准教授

ポストコロナ期に入り、中国経済に関して、メディアなどからは不動産不況など成長の停滞が伝わってきます。また、米中対立、ロシアのウクライナ侵攻などをきっかけとした、中国経済の先行き不透明・不確実性も未だ存在しています。一般的に、コロナ前よりも、ネガティブな内容が多いのではないのでしょうか。

この分科会では、まず中国経済の現況を概略します。経済成長が鈍化しつつあるなかでも、成長をけん引しているエンジンを抽出し、中国市場における日本企業のビジネスチャンスを探ります。在中国日系企業は引き続き中国市場で勝負していくのでしょうか？いや撤退または縮小するのでしょうか？それはどのような産業で起きる可能性があるのでしょうか？こうしたことを議論しながら、日本にとっての中国経済の将来性を見出すことにチャレンジしてみます。

第4分科会

国際関係 + 台湾



川島 真
東京大学大学院 教授

この分科会では、中国の対外関係、また台湾問題を含む東アジア地域の問題などを扱います。習近平政権は、先進国による秩序を批判し自ら秩序の先導者になろうとしています。コロナ禍、ウクライナ戦争などへの対処にもそのような姿勢が現れています。しかし、米中「競争」やインドがグローバルサウスサミットに中国を招待しないなど様々な課題があり、世界的な対中好感度もコロナ前後で悪化しました。他方で、国内での厳しい統治を反映して、外交官たちの行動様式も「戦狼」などと言われ批判されています。そして、周辺地域でも中国からの「圧力」は高まるばかりです。この分科会では、その中国の対外姿勢を内在的に、かつ全体的に理解していくことを目指します。

スケジュール

12月2日(土)

12:00 受付
13:30~13:40 開会
13:40~14:50 全体会 I【趣旨説明・基調講演(川島真先生)】
14:50~15:10 記念撮影・宿泊室に入室
15:10~17:30 分科会討論 I
17:30~18:30 夕食
18:30~21:00 分科会討論 II
21:00~22:30 懇親会

12月3日(日)

7:30 朝食・宿泊室を退室
9:00~11:30 分科会討論 III
11:30~12:30 昼食
12:30~15:00 全体会 II
15:00~15:10 総括・講師コメント
15:10~ 修了証書交付・閉会